

富士山世界文化遺産学術委員会及び 富士山世界文化遺産協議会作業部会における主な意見

■学術委員会

第 25 回富士山世界文化遺産学術委員会(令和7年 11 月 28 日開催)

(報告1)今夏の富士山の状況

- ・ 登山者数が抑制され、弾丸登山や遭難救助件数も減ったということで、全体的に良い状況になったという報告と受け止めた。
- ・ 登山規制の取り組みは続けていくことが非常に重要になるので、スムーズに続けられる体制づくりを目指してほしい。

(報告2)富士山包括的保存管理計画の改定

- ・ 「アトリビュート」は日本語としてあまり浸透していないため、日本語訳を加えた方がよいのではないか。
- ・ 民間も含め、広く関係機関に意見をもらうべきではないか。

(議事1)令和6年度経過観察指標に係る年次報告書(案)

- ・ 良い点だけではなく、懸念点や警戒すべき状況等についても評価して、記載した方がよいのではないか。
- ・ 年次報告書の冒頭にその年の特徴として、新たな動向や気づきをまとめて記載してはどうか。

第 26 回富士山世界文化遺産学術委員会(令和8年2月4日開催)

(報告1)富士山包括的保存管理計画の改定

- ・ タイトルをシンプルにすると、実際にやるべきことよりも範囲を狭めかねないという懸念がある。
- ・ 「インタープリテーション」という言葉がわかりにくく、日本語を付けるということであれば、「価値の伝達」という言葉を加えてはどうか。

(報告2)三保飛行場に係る遺産影響評価について

- ・ 特に意見なし。

(議事1)経過観察指標に係る年次報告書(案)

- ・ 富士山周辺のすべての活動をチェックする必要はないが、モニタリング地点や、環境が話題になっているような場所での事業については、幅広く捉えて事前に情報共有してもらいたい。

■作業部会

第 29 回富士山世界文化遺産協議会作業部会(令和7年 12 月 12 日開催)

(報告1)今夏の富士山の状況

- ・ 特に意見なし。

(報告2)富士山包括的保存管理計画の改定

- ・ 「アトリビュート」や「インタープリテーション」などは聞き慣れない言葉なので、日本語での表記を検討すべき。
- ・ 世界遺産登録後 10 年以上が経過し、倒壊している建物もある。こうしたことが起きないよう、現状を踏まえ、実行性のある計画となるよう見直しを進めてほしい。

(議事1)令和6年度経過観察指標に係る年次報告書(案)

- ・ 地球温暖化による富士山の永久凍土への影響を経過観察指標に加えるべきではないか。

第 30 回富士山世界文化遺産協議会作業部会(令和8年3月 11 日開催)

(報告1)富士山包括的保存管理計画の改定

- ・ 地球温暖化による影響は大きいと思うので、計画の中に位置づけて、モニタリングや防災対策等を行うことについて具体的に記載してほしい。
- ・ 遺産影響評価については、市町村等担当者への情報共有や周知、開発担当者との連携についても具体的な行動として記載する必要があるのではないか。
- ・ 閉山期の来訪者管理についても対応が必要ではないか。

(報告2)三保飛行場に係る遺産影響評価

- ・ 特に意見なし。

(議事1)令和6年度経過観察指標に係る年次報告書(案)

- ・ 特に意見なし。

その他

- ・ 入山料・通行料収入があると思うので、五合目以下の山小屋等の整備の支援についても検討してもらいたい。
- ・ 倒壊建物等の復興においては、個人や市町村のみでは対応しきれない部分があるので、財政支援も含めて、国・県や関係機関の協力をお願いしたい。